

魚島俳歌柳会

大林 正憲

横井里津子

田作京子

能地典子

松原 弥一

令和五年歌会始のお題

詠進歌の詠進要領

詠進歌はお題を詠み込んだ自作の短歌で一人一首とし、未発表のものに限ります。

は全て毛筆で自筆してください。
(書式図参照)

※封筒に「詠進歌」と記載

お題「友」

書式図 (半紙横長)

[illegible]

🖥️ 詳細は「令和五年歌会始」で検索



久しぶりに岩城の積善山でお花見を楽しみました。その時、最近コロナの影響によって生活が変わったことばかりを考えていて、自分の周りにある美しさを忘れていたことに気がつきました。毎日、仕事のために原付で自然が豊かな道路をとおり過ぎています。そのような日々の中、新しい英語の先生と一緒に遊んでいるうちに、私が故郷と呼ぶようになった上島町の美しさを再発見しました。瀬戸内海がさらに大好きになりました。ここ数ヶ月間、私は自転車で上島町

ありましたが、上島町の美しさに改めて触れることで、元気を取り戻せた気がします。この美しい町で残りの時間を楽しみたいと思います。また今度
 ジョン



今月の担当 ALT
ペイス・ジョナサン (生名)

— 第30回 —

今月の旅人



古川 友香さん 弓削島在住

夫（宗兵衛窯）のギャラリーに息子と散歩をし、近くの公園で遊ぶのが日課です。

陽の顔に魅せられています。

母として、妻として、歩むこの道に正解はなく戸惑うこともあるけれど、積善山の展望台を登り瀬戸内海の島々に目をやれば、豊かな自然に抱かれて、父親の背中を見て育つこの子の未来に想いを馳せるばかりです。

町で優しく声を掛けてくださる
方々、ありがとうございます。

内から外から島を眺めることができるこの町は、これからわたし達家族にとってかけがえのない場所になってゆくのだと思います。

お問い合わせ ☎0897-72-9277

上島町観光協会
Kamijima Tourism Association

<http://www.kamijima.info>

かみじま郷土話 13



▲ 写真：定光寺観音堂（国指定重要文化財）
解体修理の際に、「寛正四年」と墨書された屋根の野地板が発見されました。荘園時代末期における島民の信仰の拠点だったとみられます。

東寺は、海上勢力である小泉氏や、後に村上海賊として著名となる村上氏に、弓削島荘の所務（年貢の徴収など）を請負わせることにより、荘園を維持しようとした。しかし、岩城島では海賊が公文（年貢の徴収などを行った下級荘官）を打殺し、城郭に立て籠

弓削島荘の解体と島民の活動

そのような状況の中で、東寺は寛正4年(1463年)に、22通の証拠文書を添えて、東寺領因島荘とともに荘園の回復を幕府に訴えました。しかし、その後の記録には弓削島荘の名が現れることがなく、荘園はまもなく解体したものとみられています。

莊園の解体期にある島の人々の生活はどうなってしまったのでしょうか。莊園時代の末期にあたる文安2年（1445年）の兵庫北関

(現在の神戸港) に入関した船舶の記録には、弓削島籍の船舶が特産品の塩を積み、岩城島や伯方島に籍を置く船舶と共に活発に入関していたことが記されています。

また、寛正4年には、土生地区の見晴らしのよい高台に、定光寺観音堂が創建されました。「塩の莊園」の役割を終えた弓削島ですが、島民は周囲の環境にも負けず、たくましくその生活を展開していたとみられています。



教育課 曾根 大地